



みついでとつとむ(中村修司代表) 主催による町のPRイベントが10月9日に道の駅みついで開かれ、立ち寄った観光客や地元の人たちでにぎわいました。

この事業は、町の観光や三石地区商店街などのPRを目的に開催され、今年2回目となります。

### 道の駅で町をPR

会場では、三石地区の飲食店などにより「たこザンギ」や「手羽元」、「スパアリブ」、「黒い日高昆布豚まん」などが販売され、午前中に完売するブースもあり、中村代表は「町の良さをPRできました。来店したお客さんに感謝したい」と話しました。

新ひだか得する街のゼミナール実行委員会(妹尾臣知会長) 主催の『第3回得する街のゼミナールin新ひだか』が10月15日から11月14日にかけて開かれています。

まちゼミは、店主などが講師となり、専門的な知識や技術を提供するゼミで、今回は36講座を開

### 得する街のゼミナールin新ひだか

講じています。

初日に開催した大野町長が役場内を案内する講座には6人が参加し、各課を巡り仕事内容の紹介や町長室での記念撮影などが行われ、参加者は「町長の説明が分かりやすく、課によって仕事が違うことを再認識しました」と話しました。



### みついでとつとむ

### 幌村建設株が

### 三石小学校にブドウを寄贈

9月22日に幌村建設株(幌村司代表取締役・三石蓬栄)が、同社で栽培したブドウ(巨峰)約200房を三石小学校へ寄贈し、早速この日の給食で1人に1房ずつ配られました。

今年には新型コロナウイルスの影響により、恒例の1年生と6年生によるブドウ狩り体験ができませんでした。今年度は、児童らは笑顔いっぱい、新鮮な秋の味覚を堪能しました。

櫻井校長は「子どもたちへいつもこのような機会を与えていただき、心からありがとうございました」と感謝の言葉を述べました。



### 淡路ゆかりの地を巡る

### バスツアー

教育委員会主催の『淡路ゆかりの地を巡るバスツアー』が10月3日に開かれ、町内外から20人が参加しました。

ツアーでは、現在博物館で開催中の特別展『移住した人々』の関連事業で、明治時代に淡路島から移住した方のゆかりの地について、山田一孝静

内郷土史研究会長が案内となり、開拓者集団上陸地や北邊開拓の礎など9か所を巡りました。

参加者は「先人の苦労の上に今の生活があることを忘れてはいけない」と強く感じました」と話し、地域の歴史についての知識を深めました。



### 日本生命苦小牧支社と

### 包括連携協定を締結

町と日本生命保険相互会社苦小牧支社(大矢正也支社長)による『まちづくりに関する包括連携協定書締結式』が10月8日に役場静内庁舎で行われました。

大矢支社長は「地域協定では、町民福祉の向上や地域の活性化などを目的に、健康増進・疾病予防など6つの分野で連携協力し、今年度は同社社員によるがん検診の周知や高齢者への見守り活動の推進などに取り組みます。」

大矢支社長は「地域にに応じた課題に取り組んでいきたい」と話しました。



### 町長らが

### ICTを活用した授業を見学

10月12日から14日にかけて大野町長や町職員が町内施設を視察し、各種施設の現状や課題を共有化しました。

このうち、昨年、町内全ての小・中学校に導入した1人1台分のタブレット端末の活用状況を見学するため、静内小学校を訪れ、漢

字の書き取りや計算問題、体育などの授業を参観しました。

その後、学校長などとの意見交換が行われ、玉手校長は「子どもたちは、飲み込みも早く、授業中や休み時間、家庭などで積極的に使っています」と話しました。